

# POPULAR

ポプラ

No.66  
関西学院通信

2009 Autumn  
秋号

<http://www.kwansei.ac.jp>

特集  
創立120周年  
発展の礎を  
築いた  
4人の院長

数字でみる関学  
2009年度入学生調査

Photo Library

キャンパスの秋

特集 2  
創立120周年  
発展の礎を築いた4人の院長

数字でみる関学 8  
2009年度入学生調査

就職の窓 9  
就職活動を振り返る

Photo Library 10  
キャンパスの秋

ひと 人 ひと 12

私たちの先生 14  
理工学部 壺井基裕ゼミ

SKY SEMINAR 15  
社会学部教授  
難波功士

Campus News 16  
野田正彰教授からのメッセージ  
クローズアップ  
学院通信

Book Select 22

また今度の日曜日 23  
教育学部教授・宗教総主事 田淵 結

特集  
創立120周年

発展の礎を

築いた

4人の院長

SPECIAL ISSUE



3



4



5



2



1



6



6



7

① 移転当時(1929年)の西宮上ヶ原キャンパス ② 高中部礼拝堂前のソテツは、原田の森から移植され樹齢100年以上 ③ ベーツ院長の住居だった外国人住宅1号館 ④ 1918年に原田の森に建てられ、移設されたハミル館 ⑤ 原田の森のランチ・メモリアル・チャペル(現在は神戸文学館) ⑥ 原田の森当時(下)と大学院棟前に移設された現在の門柱(上) ⑦ 西宮上ヶ原キャンパスにある関西学院発祥の地記念碑

アメリカ・南メソジスト監  
 督教会の宣教師、ランバスは  
 1886年、日本における宣教  
 活動の指導者として弱冠32歳で  
 来日。神戸に居を構えた。  
 日本での大きな使命の一つが、  
 伝道者の養成とキリスト教主義  
 に基づく男子教育を目的とした  
 学校の設立だった。銀行の無担



1854-1921

## ランバス院長 生涯を人に仕えた

関西学院は1889年、W・  
 R・ランバスが神戸・原田の森  
 に設立した。創立者ランバスの  
 志は代々の院長へと受け継が  
 れ、現在の総合学園へと発展を  
 遂げる。創立120周年を迎え  
 新たな飛翔を目指す今、礎を  
 築いてきた初期の院長4人にス  
 ポットを当て、関西学院に果た  
 した役割や人となりを振り返る。



創立当時の校舎

保融資、米国の銀行家らの献金により、89年9月に関西学院を創立。国家主義的な風潮が強まる中、国際性を掲げる小さな学舎はランバス院長と5人の教授、19人の学生・生徒によりスタートを切った。「関西学院」の呼び名は、ランバス院長が2代目の吉岡美国院長とともに命名した。90年、妻の病のため志半ばで帰国し、教会の要職に就いた後も、アフリカや南米、欧州、アジアと世界を舞台に宣教活動を展開した。「世界市民にしてキリストの使徒と言われるのは、国境や人種、民族の壁を超えた医療や教育、伝道などを通して、それを必要とする人、苦しむ人に仕えてきたからです」と神学部の新田健次教授は評する。その生涯はまさしく後にベーツ院長によって唱えられたスクールモットー“Mastery for Service”そのものだった。

## 「敬神愛人」の慈父 吉岡院長



1862-1948

ランバス院長が去った学院を23年半にわたり守り抜いたのが2代目、吉岡美国院長だ。幕末の武家に生まれ、新時代を切り開く手段に英語を学ぶ。神戸での英文紙記者時代にランバスと出会い、キリスト教に入信。関西学院の設立にもかわわり、1892年、院長に就任した。学院存続の危機は99年。教育からキリスト教を排除しようとの意図で文部省訓令第12号が発令される。「聖書と礼拝を放棄しなければ、徴兵猶予や上級学校への入学資格を与えない」という、ミッションスクールへの弾圧といえるものでした。

訓令に従う学校も出る中、吉岡院長は「聖書と礼拝なくして学院なし」と建学の志を貫く。入

学者の減少や在校生の転校により1909年には卒業生ゼロとなるが、「やむを得ざるなり」と毅然として受け入れた。

また、武士的な気骨や風格とともにキリスト的慈愛を備え、「敬神愛人」の心で学生たちに愛情を注いだ。アルバイトに励む苦学生たちを支え、牛乳を販売するため

に飼っていた牛が暴風雨で被災した際は、持ち家を処分して負債に充てたという。

自助会の学生と牛舎



## 学院の育ての親

## ニュートン院長



1848-1931

キリスト教主義教育への風当たりも収まり徐々に市民権を得ていく中、カナダ・メソヂ

スト教会の経営参画で学院は財政的にも人材的にも充実していく。このころ、3代目に南メソヂスト監督教会宣教師のJ・C・C・ニュートン院長が就任した。学院創立時に初代神学部長となり、4年の院長在任を含め学院とのかかわりは30年に及ぶ。

「生みの親がランバス先生なら、育ての親はニュートン先生と言われるほど、神学教育を中心に優れた指導力を発揮し、学院を支えました」と神田教授は話す。常に自宅を



## 神学部 神田健次教授

研究分野は実践神学、エキメニカル運動、現代の宣教理解

開放して、神のような生活と精神を傾けた教育で学生たちを導き、多くの逸材を育て上げた。

また、初代図書館長としての貢献も忘れてはならない。大きなトランクいっぱい書物を詰めて



### 一新基本構想で制定された ミッションステートメントとは。

関西学院のアイデンティティーを語り、どういう目的で、なぜ存在しているのかを短い言葉で伝えています。私たちが関西学院を共に感じる事、それがミッションステートメントを通じて実現したいことです。

### 一なぜ今の時期なのでしょう。

学院の規模が大きくなるにつれて一体感が薄れがちです。創立120周年という大切な年に、あらためて建学の精神や私たちの持つ価値、追求するミッションを明らかにします。ミッションステートメントは、私たち一人一人がキリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」の一員として、同じ方向に進んでいることを確認する北極星のようなものです。授業やイベントを通じ、「世界市民とは」「人生の目標は」と具体的に考える機会をつくっていききたいと思います。

### 一來年、院長として 2期目を迎えます。抱負は。

新基本構想の実現に向けた取り組みが中心となります。中でも、やはりミッションステートメントの浸透が私の大きな課題です。この浸透については3段階で考えています。第一は、「学びと探究の共同体」の人々が、私たち関西学院のミッションステートメント、スクールモットー、めざす人間像をまず知ることです。第二段階は、それらが意味していることを理解し、受容すること。最後には、自分の人生に適用し、実践・体現しようとする事です。創立125周年を迎える2014年に向けて、皆さんと一緒に取り組みたいと思っています。



## 未来への道を示す ミッションステートメント

創立120周年の今、新基本構想を定めるに当たり、ミッション(使命)をあらためて確認した。第15代、ルース・M・ゲルバー院長に話を聞いた。



1877-1963

## ベーツ院長 スクールモットー提唱

来日し、そのまま学生に提供したのが図書館の始まりとなった。大学図書館では2000年、ニュートン院長の名を冠した賞を創設し、学生・生徒から文章を募集している。

4代目のC・J・L・ベーツ院長は、スクールモットーの提唱者として知られる。カナダ・メソジスト教会の宣教師であり、同教会の学院経営参画と同時に赴任した。新設の高等学部部長として1912年、高等学部のために提唱した言葉が、後に院長就任とともに学院全体のスクールモットーとなった。

院長は「We have no fences.」と誇ったという。「この考え方は、新基本構想で目指す大学像『垣根なき学びと探究の共同体の実現』に受け継がれています」

大学昇格に奔走する一方、自らの人脈でキリスト者の学者、河上丈太郎らを招き、大学にふさわしい学問的なレベルアップにも尽力。32年に文部省の認可を受けて大学開設を果たし、34年には初代学長を兼務した。

太平洋戦争直前の40年12月、職を辞して神戸港から帰国。

“Keep this holy fire burning.”



◆ミッションステートメント／関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。

(この聖なる火を絶やさないように)のメッセージを残した。聖なる火の意味するもの、それはランバス院長から受け継がれてきた建学の理念に違いない。

# エピソードや遺品から

## 4人をしのぶ

関西学院には、4人の院長にまつわる数々のエピソードが語り継がれ、遺品類も残っている。また、子孫との交流も続いている。そこから、人柄や暮らしぶりをしのぶ。

### W・Rランバス



#### 瀬戸内伝道圏構想

南メソヂスト監督教会は、西日本を伝道地としていた。来日したランバスは、瀬戸内海を通して主要な地方都市へのアクセスがよく、2年後には東京まで東海道線が開通するという陸海交通の要所、また世界に通じる港である神戸を拠点に、次々と教会や学校の創設を進めていく。日本における宣教師としてのランバスには「瀬戸内伝道圏構想」と呼べる確固としたビジョンがあった。

#### 最期の言葉

アジア訪問中に発病し、1921年9月、横浜で永眠。遺骨は関西学院に運ばれ、神学部講堂で告別式が行われた後、母が眠る中国・上海へ。ニュート

ンらが見守る中、最期の言葉は「I shall be constantly watching.」(常に見守っていよう)だった。

#### 15歳のころの書簡

アメリカネネシー州の高校に通っていたランバスが中国の両親にあてた手紙。「私は全力を尽くして勉強しています。また、できる限り時間と労力とお金を上手に使うよう努めています」と書いている。



英語をまず左から右へと横書きし、その後、向きを変えて重ね書き。裏にも書いて1枚の紙を有効に使っている。

#### 辞書

日本で共に伝道活動に従事した父、J・W・ランバスの日本語学習用にプレゼント。ランバス本人や父の直筆が残る。

#### 薬びん



医師でもあったランバス。アフリカでの医療伝道に携行した。



### 吉岡美国



#### 敬神愛人

「敬神愛人」を生涯の標語とし、好んで揮毫した。その書は、中学部本館玄関と高中部礼拝堂横に掲げられている。



#### 慈父として

「慈父」とも呼ばれ、学生一人一人に細やかな愛情を注いだ。中学部卒業生で聖路加国際病院名誉院長の日野原重明さんの父親、善輔さんが在学中に寮で重病にかかった時、自宅に引き取って看病したのは有名な話だ。

#### 英文タイプライター

英語の達人でもあり、ニュー



ヨークのフランク・ランバートによって開発された英文タイプライターを愛用。一体型のキーボードが特徴で、木製ケースに納められており、簡単に持ち運びできる。

拡大鏡



読書が好きで、目が悪くなつた晩年は、毎日朝食後、英字新聞を虫めがねで見ながら、流暢な発音で読んでいたという。

吉岡記念館

1929年に建設された宗教館を2006年全面改築し、吉岡記念館と命名。学院のキリスト教主義教育を推進する機能が集まっている。

J.C.C.ニートン



アトランタの家

1923年にニートン夫妻が神戸港から帰国する際、見送りは2000人ともいわれている。

帰国後はアトラ



ンタの娘の家に身を寄せ、西の下角の窓から日本のため、学生のために祈っていたという。「I want to go to heaven through Kwansei Gakuin.」(関西学院を通じて天国にいきたい)という言葉を残した。

シルクハット

遺族から寄贈された愛用のイギリス製シルクハットは専用のホルダーに入れて保管されていたため、美しい状態に保たれている。



シルクハットを手にした写真も残っている。

資料2千点が米国の学校に

アメリカノースキャロライナ大学チャペルヒル校の准教授で、23年前に1年間高等部への留学経験を持つ



つタニエルボツマンさん(日本近世史専攻)が7月、関西学院を訪れた。写真右。同准教授の大学は、ニートン院長に関する資料約2千点を所蔵しており、講義で資料として活用しているそう。「資料をもとに、関学と共同研究や学術交流を深めていきたい」と話している。

J.C.L.ベーツ



絵画

風景画を好んで描いた。水彩

画5点、油彩画1点、スケッチブック2冊が今年6月に曾孫から寄贈された。



祖父と孫に名誉博士学位

1959年、学院創立70周年の際にベーツ院長が来学。名誉博士学位第1号が贈られ、その学位記は創立100周年時に遺族から学院に寄贈された。

42年後の2001年には、ベーツ院長の孫でカナダ・マギル大学教授のアルマン・デメストラルさん(国際法)に29番目の名誉博士学位を授与。写真左。式典には祖父愛用のガウンで臨んだ。



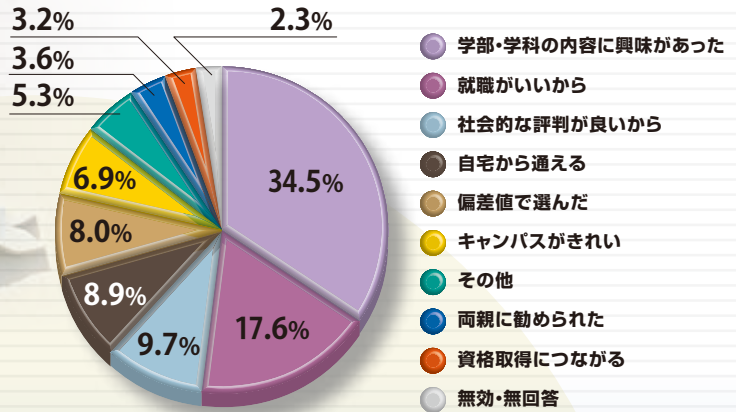
デメストラルさんは「関学の話はよく聞いた。関学のために何かしたい」と、学院とマギル大学との協定締結等に尽力。10月には法学部の公開講演会で話をした。

いす

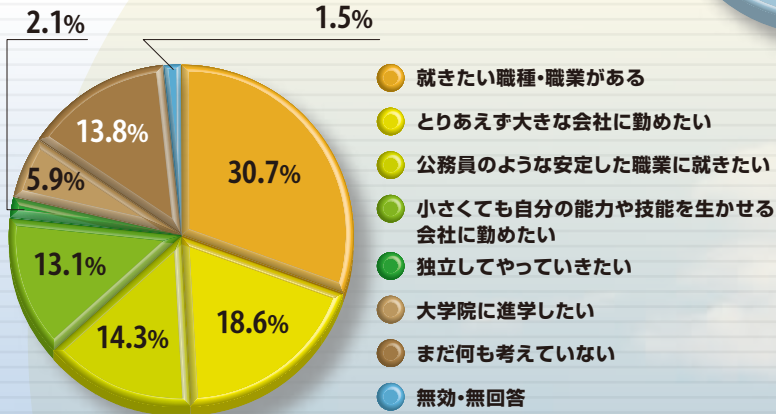
右は住居で、左は院長室で愛用していた。



## 関西学院大学を選んだ第一の理由



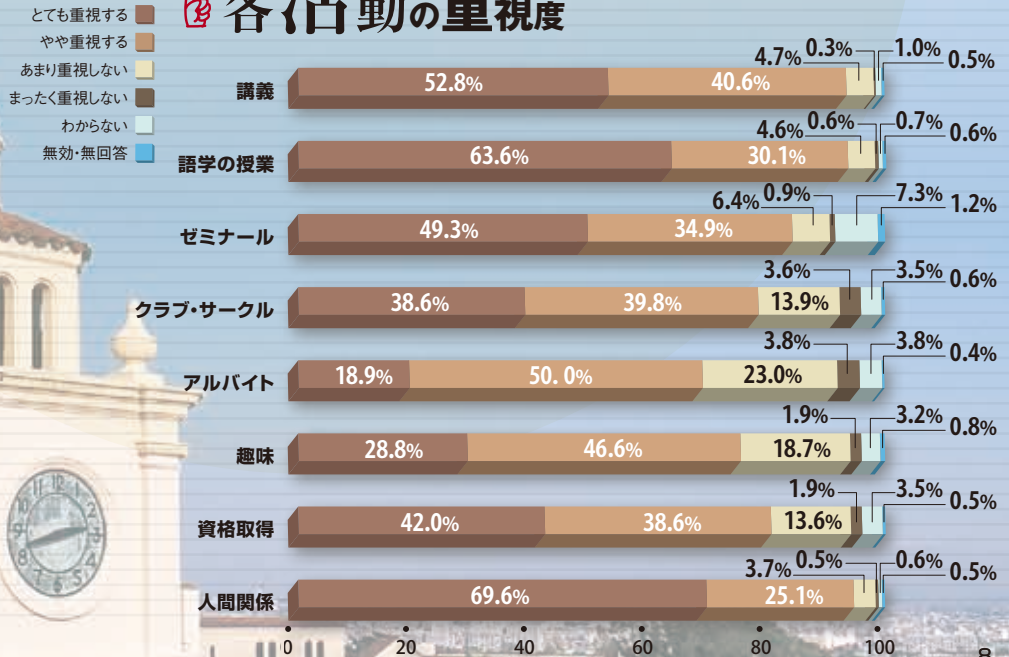
## 職業についての考え



## 2009年度入学生調査 数字でみる関学

関西学院大学総合教育研究室は、今年度から新たに4月に入学した学生の調査を実施した。この調査は、教育や友人関係、課外活動などが個人に与える影響と個人特性との関係を捉えるためのもの。入学生全員5,559人を対象にアンケートを郵送。3,416人から回答があり、回収率は61%だった。この調査は2年次終了後、4年次の卒業直前にも継続して実施する。

## 各活動の重視度





## 三井物産に内定

法学部4年生

樋口祥子さん



**自** 己分析をする際、気づかぬ  
いけど重要なのが、家族の  
視点です。

母と話している時  
に言われた一言が自  
己アピールにつなが  
りました。

商社の面接では「あ  
なたのどんな所がこ  
の会社で生かせるこ  
思うか」とよく聞か  
れました。「英語力」  
「異文化コミュニケーション」

ら面接がうまくいきはじめました。  
就活は自分を知る絶好の機会。  
「自分をもっと知ってやろう」と  
いう意気込みがあれば、つらい  
ことも乗り越えられるのではと  
思います。

今年度の就職戦線も終盤に入った。  
進路が決まった4年生に、  
就職活動を振り返ってもらった。

## 第一生命保険に内定

商学部4年生

桑本貴隆さん



**40** 社ほどにエントリーしまし  
たが、数が少なく、苦戦の  
要因となりました。体育会に所属  
していれば何とかなると思ってい  
ましたが現実には厳しいものでした。

面接では「自分らしく、嘘をつ  
かずに話そう」と心がけました。で  
も志望動機が曖昧で、なかなか内  
定には至りませんでした。4月下  
旬には持ち駒がなくなり、途方に  
暮れる日々が続きました。

影響で活動が中断するなど波乱  
もありましたが、6月中旬に内定  
をいただくことができました。う  
れしい反面、不安もありました。頑  
張ってみようと思えました。

後輩の皆さんには早い段階から  
多くの企業を回っていただきたい  
と思います。学業とクラブ、就職  
活動をバランスよく続けることも  
大切だと思います。

## 中部飼料に内定

社会学部4年生

北村義規さん



**公** 務員が民間企業かで進  
路を迷った時期もありま  
したが、3年生の秋から「食品  
業界」に絞って就職活動を始め  
ました。きっかけは、

3年生の時に受講し  
た「学際ゼミ001  
次世代のための公共  
政策論」の授業です。  
食料自給率を調べた  
時に「このままでは  
日本の食料問題が危  
ない。何とかしたい」と強く思い、  
生産現場に近い会社を中心に受け  
ました。  
周りは農学部の学生が多く、社  
会学部の私は珍しがりましたが、  
食堂のメニューの自給率を調べた  
ことなどを話しながら、入社して  
から何がしたいのかを自分の言葉  
で伝えました。3年生になってか  
ら少人数のゼミ形式の授業を多く  
履修していたので、そこでの討論  
も就職活動でのグループワークに  
とても役立ちました。

食品業界に絞ったのは、一種の  
「賭け」でした。会社側にこの業界  
が不向きと判断されると全滅で  
したので。しかし、絞ったからこ  
そ、1回ずつの面接を本気で取り  
組めたと思います。

P h o t o L i b r a r y

# キャンパスの秋

黄昏色に染まった樹々も校舎も、  
金木犀の甘い香りをまとっている。  
一日一日、秋は深まっていく。



移ろう季節に沿うように、空のキャンパスに描かれる模様も変わる。



ansei Gakuin



光にそよぐ銀色の穂。



# Autumn at Kw



## 永田有吾さん 法学部2年生

今年の8月から1カ月間、中国の貧困問題解決を目指す社会起業NPO「Ventures in Development」のインターンシップに参加した。

このNPOは、中国北西部のチベット族の村で、「ヤク」の乳製品や柔毛を使った製品開発などを通じて、貧困地域で暮らす人々の自立を支援している。永田さんは、製品を上海市内の日本人に販売するためマーケティングを担当。日本人コミュニティの調査をしたり、得意

のジャズピアノを演奏

し、訪れた客へヤクのチーズを提

供したりし

て、顧客開拓に努めた。

活動からは「商品の背景にある貧困問題の現状を知ってもらうことが大切」と実感。「自分も何らかの形で社会起業家として活躍したい」と夢を膨らませている。



社会起業家を目指して  
中国のNPOで就業体験

ひと 人 ひと

One person person



## 前田高孝さん 人間福祉学部1年生

約10年前、二人は中学校の教師と教え子。谷口さんが前田さんの担任として、1年と3年の時に指導した。今は、谷口さんが紛争解決プログラム、前田さんがタイの孤児院にサッカー場を建設する活動に取り組む。同じ関学生として月に1回、食堂で活動のことや勉強のことなど情報交換するのを楽しみにしている。

「同窓会というと昔話で盛り上がるけど、私たちは会えば、今やこれからの話ばかりしている」と谷口さん。二人とも「タイミンが合えば、一緒に社会貢献活動をした」と目を輝かせている。

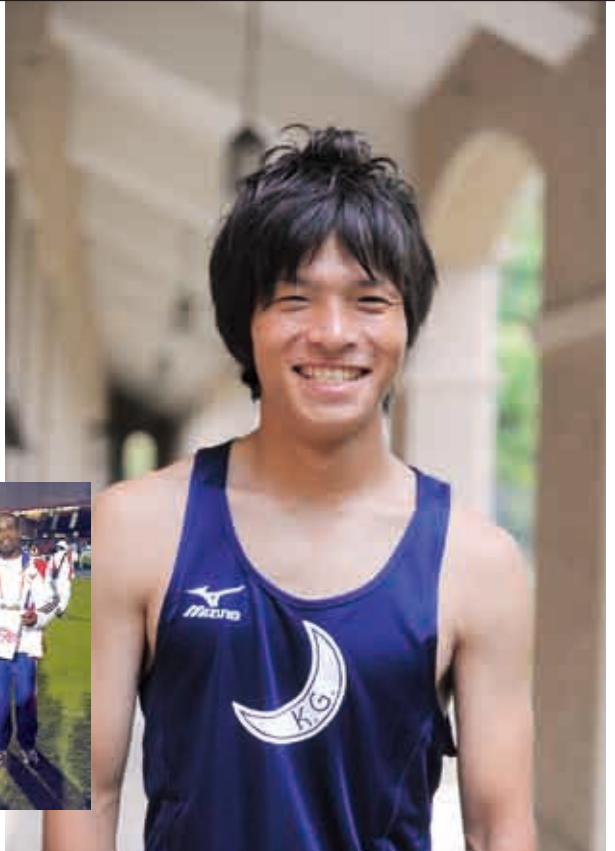


## 谷口真紀さん 言語コミュニケーション文化 研究科博士課程後期課程

かつての師弟が関学で再会  
活動や夢を語り合う仲間

たいと考え、ホームページでフェアトレード商品を販売したり、ホームレスのワールドカップサッカー「野武士ジャパン」のコーチをしたり、多彩な活動に取り組む。

勉学に、スポーツに、趣味に……。さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGヒーブルたち。さらさらと輝く横顔を紹介する。



## 重田竜佳さん 人間福祉学部1年生

9月5日～15日に、台北で開催された聴覚障がい者のオリンピック、デフリンピックで、リレー2種目のメンバーとして入賞を果たした。「中学校の陸上部の顧問に陸上競技を勧められ、楽しみに目覚めました。大学でも陸上競技部で練習を続けている。」



得意種目は百メートルと二百メートル。大会では、男子百メートルと男子四百メートルリレー、男子四百メートルリレーの3種目に出場。リレーでは、2種目とも決勝進出、4×百メートルリレーでは、43秒51で6位、4×四百メートルリレーでは3分24秒21で5位に入賞。百メートルは準決勝に進出し、11秒21を記録。決勝進出は逃したが、総合9位に入った。「2013年のデフリンピック・アテネ大会では、今大会の経験を糧に、世界一を目指し、練習に励みたい。陸上競技の楽しさも積極的に伝えていきたい」と意気込んでいる。

# デフリンピックで3種目に活躍 アテネ大会では世界一を

## 人の縁の大切さを感じながら 弁護士として活躍

### 小島幸保さん 1995年法学部卒

政治学科に入学したが、同級生に司法試験の教材を見せてもらったのがきっかけで法律の勉強を始めた。「弁護士になったのは自分でも想定外でした。知れば知るほど深い法律の魅力にすっかりはまってしまうしました。2000年に大阪市に個人事務所を設立。関学大で非常勤講師や学生の法律相談も担当している。高校1年生の時に関学OBの塾の先生にキャンパスに連れてきてもらい、「キャンパスにひと目ぼれして入学。自他共に認める関学好きで、事務所の応接室には関学のカレンダー」



ダーを飾っている。「相談者とも関学の話で盛り上がり、その会話をきっかけに打ち解けることができます。弁護士になったこと、事務所の開設、NHKの番組出演など、常に人々との縁の大切さを感じながら弁護士業務に勤しんでいる。



## 私たちの先生

理工学部 壺井基裕ゼミ

先生から  
ひびき

## →私の研究課題

「地球はどういう構造をしているのか?」、「いつ、どういうプロセスを経て現在の地球になったのか?」という問題について、化学的なアプローチから研究を進めています。身近にある岩石や鉱物は、地球の歴史を記録した「タイムカプセル」です。黙っていても何も話してくれない「石ころ」ですが、分析機器を使って問いかけてやることにより、年代や化学組成といった情報を引き出すことができます。実験によって集めたデータを統合して、「どのようにして岩石が作られたのか」というモデルを考えます。近年、環境問題がクローズアップされていますが、地球の成り立ちを明らかにすることは、未来の地球環境を予測する上で重要であると考えています。

## →学生へのメッセージ

大学進学率が5割を超え、もはや「大学を卒業した」というだけでステイタスを得られる時代ではなくなりました。大学の起源は、12世紀ごろのヨーロッパで「自ら学びたい」という人たちが集まって、自発的にできたコミュニティです。現代の大学においても、その根底に流れる思想は変わらないと思います。一生に一度しか経験することができない貴重な青春時代を、この「関学」というコミュニティで仲間や先生とともに切磋琢磨しながら過ごす。そのような素敵な共同体の一員であることに幸せを感じます。関学生であるということが引き続き高いステイタスであるように、私も学生の皆さんと共に、このラーニングコミュニティで努力したいと思います。



建部しおりさん  
理工学部4年生



つばいもとひろ 理工学部准教授。和歌山県出身。名古屋大学理学部地球惑星科学科卒業、同大学院理学研究科博士前期課程修了、同大学院環境学研究科博士後期課程修了、2005年博士(理学)。関西学院大学理工学部専任講師を経て09年4月より現職。専門は分析化学、地球化学、岩石学。日本分析化学会、日本化学会、日本地質学会、アメリカ鉱物学会等に所属。

## 分析化学で地球環境を考える

研究室の大きなテーマは「地球環境の化学」です。壺井研究室では様々な分析化学の手法で、岩石の年代測定や成因の研究をしてきましたが、今年「環境」というキーワードに重点を置き、岩石に加えて「湧き水」「貝殻」「日本酒」の化学分析をしています。4年生4人は、それぞれ自分のテーマを決めて研究しています。岩石を研究する学生も、新しい手法で鉱物の中に含まれる水について研究しており、今年の研究室はある意味「チャレンジ」

の年なのかもしれません。私は湧き水の研究をしています。兵庫県内の名水といわれる灘や丹波の湧き水を採取して、誘導結合プラズマ質量分析計という分析装置にかけます。特に環境と関連する亜鉛、マンガンなどの元素を分析し、地域によってどんな成分の違いが出てくるのか、卒業研究としてまとめています。貝殻や日本酒の研究をしている4年生も産地ごとのサンプルについて分析しています。

質量分析計は、今年初めて研究室に導入されたので、みんなで試行錯誤をしながら使っています。おかげで「考える力」がついてきたと実感しています。新しいことを新しい方法で一からやっていくことは、いい経験だと思います。

研究室は、大学院生を含めて6人と小規模なので、とてもアットホームです。先生にはいつも「自分で考え、自分から行動することを教えていただいています。今やっている研究を来年入ってくる後輩たちにいい形で引き継げるように、残り数カ月、自分たちで考えながら進めていきたいです。」



なんば・こうじ 1961年大阪市生まれ。84年(株)博報堂に入社。96年から関西学院大学社会学部教員に。東京大学大学院社会学研究科修士課程修了。博士(社会学)。著書に『ヤンキー進化論』(光文社新書)、『創刊の社会史』(ちくま新書)、『族の系譜学』(青弓社)、『「広告」への社会学』(世界思想社)、『「撃ちて止まむ」』(講談社選書メチエ)、共編著書に『博覧の世紀』(梓出版社)、『メディア文化を読み解く技法』(世界思想社)などがある。

私 は「社会とは、〇〇が当たり前だ(し)皆もそう思っている」と思っている人々(の諸関係)だと考えています。人々の間で自明視されることは、時代や地域ごとに違います。ではなぜ、その時その場でその社会通念が成立したのか(しているのか)。社会学はそんな問いから始

# 社会を学問するのが、社会学。では、その社会とは

社会学部教授  
難波功士

## SKY SEMINAR

スカイセミナー

※日本航空グループの機内誌「Skyward」に年8回掲載する関西学院の企画広告を転載したものです。

まるが多いようです。

たとえば「ヤンキー」と呼ばれる人たちがいます。常識的には「ドメスティック(自国的)を志向する」や「や強面な人々であり、「関西出自」とされることも多いでしょう。ではなぜ、アメリカ(北部)人を指すヤンキーなのでしょう。河内弁の語尾「〜やんけ」からの転訛であってアメリカとは無関係という説もあれば、70年代大阪ミナミのアメリカ村にたむろした若者たちに由来するとの説もあります。

しかし私は、やはりヤンキーはアメリカ、とりわけ首都圏の基地から新宿などへとくりだした米兵たち(の私服・遊び着)に影響を受けて、70年前後に日本の一部の若者たちの間で流行した独特な服装・髪型(リーゼントなど)であるヤンキー・スタイルが発祥だと考えています。そのグローバルな起源が忘却されていく中で(ヤンキー・ファッションを好む)不良っぽい若者たち「ヤンキー」となっていく、特に関西を中心にそのスタイルが継承・展開され、80年代にそれが全国化したというのが私の説です。

と考えると、現在ドメスティックでローカルなものとされるヤンキーも、戦後日本のアメリカナイゼーションの中に位置づけられるのではないのでしょうか。関西学院大学先端社会研究所では「戦争が生み出す社会」という共同研究を行っていますが、私は米軍基地の日本の生活文化に与えた影響に興味を持っています。

そういえば、私は大学までを関西で過ごしたのですが、卒業後上京して「NHK教育テレビが12chじゃない!？」と衝撃を受けました。関東で教育テレビが3chとなったのは、現在のテレビ東京が開局する1964年まで、VHF12chの帯域は米軍のリーダーのためにキープされていたからだそうです。FEN(AFN)がなかなか受信できない関西と、聴けて当たり前の首都圏とが異なる社会であることを実感した瞬間でした。

米軍放送の圏外だった関西だからこそ、そのオリジナルからは想像もつかないような、ヤンキー・ファッションの独自のガラパゴス的進化(?)があったのでは、などとも最近では考えています。

## スクールモットー実践 初の「学生による企画」決定

関西学院大学は、今年度からスクールモットー「Mastery for Service」を実践する、学生の創意工夫に基づく企画・活動を募集し、1件当たり年額10〜50万円程度を支援する制度を始めた。

71件の応募の中から7月21日、19件が採択された。学生が自主的に企画・運営するもので、原則として来年1月末日までに終了するプログラムが対象。採用通知式で杉原左右一学長は、採択者に「マスターリー・フオア・サービスの精神を大切に、それぞれの目標実現に向けて、しっかりと取り組んでほしい」と激励した。

## 同窓会が海外支援ネットワークを設立

関西学院は、さらなる国際化を目指し、海外同窓会支部と連携した「海外支援ネットワーク」を9月28日に設立した。関西学院のビジョンをまとめた「新基本構想」に掲げる国際化推進をバックアップする。

同ネットワークには、現在20支部ある海外同窓会支部が参加する。学院の学生・生徒・児童

および教職員の海外派遣支援や現地でのキャリアサポートのほか、受入拡大が計画されている留学生に対し、同窓会活動への参加を積極的に誘うなど、学院の国際化事業の推進に寄与する。専用のウェブサイトも新たに設置し、情報共有も促進していく予定。

## 経済学部創設75周年記念 学生版経済学会エコノフェスタを開催

経済学部は、学部創設75周年を記念して12月2日、「Econofesta(エコノフェスタ)学生が読む経済～現実と理想～」を開催する。経済学部生が企画・運営する学生版の経済学会。慶應大、上智大や海外の大学生と、関西経済、環境、国際、地方財政、英語セッションなど7つのグループに分かれ、日本と世界の経済

の未来を考える。

また、経済学部94年卒の三澤肇氏(MBS報道局記者、元同局キャスター)や山田道子氏(サンデー毎日編集長)を招き、経済学部の教員や学生を交えたシンポジウム「夢みるチカラ～現実と理想～」も開催。

詳細は経済学部のホームページ参照。

## 社会学部が創設50周年記念事業

社会学部は2010年に創設50周年を迎えるにあたり、次のような記念事業を予定し、取り組みを始めている。

▷『社会学部の50年-写真と回想で綴る半世紀の歩み-』の編集、出版

従来の学部史とは内容・体裁を異にするもので、中心となるのは写真、文書、建物の図面などの保存資料と、それらをめぐ

る関係者の「証言」。

▷「社会学部の現在-映像と写真による2010年の記録」DVD作成

社会学部における教育研究や大学の各種行事などの模様を撮影し、記録として保存する。学生スタッフの有志も撮影に参加している。

また、計4回の学術講演会も開催する予定。

学部・研究科	学年	代表者名	企画名
社会学部	3	渡辺 伊智	街の落書き消し
社会学部	4	西本 早希	空き店舗活性化と高齢者賑わいを同時に達成する「歌声喫茶」の運営新企画
法学部	3	白川 あゆみ	模擬裁判員裁判の実施
経済学部	1	名久井 義久	宝塚ルネサンス市民が作る宝塚の風物詩
経済学部	1	太田 晃太郎	ループバスプロジェクト
商学部	2	村田 冴	上ヶ原文教地区の都市景観形成活動
商学部	3	阿曾 典子	フィリピン小学校・孤児院支援プロジェクト 輪-RIN-
商学部	4	寺澤 宏明	関西学院大学サッカースクール
人間福祉学部	2	奥 尚子	CASA de Asia (滞日外国人就労支援カフェ)
人間福祉学部	2	中村 諒	ポリグルプロジェクト(汚水問題改善)
人間福祉学部	1	前田 高孝	タイの孤児院にサッカー場を建設する
人間福祉学部	2	福山 温子	K-ciss-G(在日インドネシア人ソーシャルサポートグループ)
総合政策学部	4	岩崎 謙二	関西学院大学における聴覚障がい学生支援ノウハウ継承について
総合政策学部	4	吉田 恵梨奈	フェアトレードカフェ～フェアトレードでおくるクリスマス～
理工学部	3	戸谷 直之	学生向けプログラミングセミナーの開催
理工学部	1	諫山 慶一郎	三田ものづくり体験会
聖和大学教育学部	2	遠藤 美帆	花いっぱい聖和キャンパスにしよう!
聖和大学人文学部	3	平田 小織	日本の食改革プロジェクト 関西学院大学・聖和大学からの提案と実践
文学研究科	M2	西崎 晃輔	地域通貨・地域活動によるコミュニティ再生への心理学的貢献-Mastery for Serviceの促進と効果測定-



## 高等部野球部が70年ぶりに夏の甲子園出場



関西学院高等部の野球部が70年ぶりに第91回全国高校野球選手権大会に出場した。

初戦は酒田南高(山形)に7-3で勝利。続く2回戦は今大会優勝した中京大中京高(愛知)と対戦。追いつ追われつの好試合を展開したが、4-5と惜敗した。

甲子園球場のアルプスタンドでは、野球部関係者のほか、関西学院高等部や啓明学院高校、報徳学園、仁川学院の吹奏楽部や関学大のチアリーダー、関学の教職員や同窓生らが、

4000人を超える大応援団を組織。高等部と中学部の生徒が青と黄のTシャツを着て、校章である新月(三日月)の人文字を作り、「オールKG」の息の合った応援で選手たちを後押しした。初戦の試合終了後には、関西学院校歌「空の翼」が流れ、関学ファミリーの大合唱が広い甲子園球場に響き渡った。

## 額川美術館と連携協力協定を締結

関西学院は9月29日、財団法人額川美術館(西宮市)と連携協力協定を締結した。期間は2009年10月1日から12年3月31日まで。研究資料としての館蔵品の提供、博物館学芸員課程の「博物館実習」でのこれまで以上の協力や、学院各学校の芸術関係の学外講座の実施など、学術・研究および教育における

連携協力を図る。学院各学校の学生・生徒等が入館料無料、保証人・保護者、教職員は半額で入館可能。入館方法は次のとおり▷学生・生徒等=学生証・生徒証等を提示▷保証人・保護者=学生・生徒等の氏名、学校名(大学は学部・学科、研究科名)、学年を窓口にある所定用紙に記入。

# 社交を 楽しむ



野田正彰  
教授からの  
メッセージ……⑱

## 野田教授

のだまさあき  
比較文化精神医学専攻、平和学「広島・長崎講  
座」、ノンフィクション作家養成講座を担当。

## 学

校特に公教育では、スポーツをする、文化祭を催すなど一つの目的のために集団活動することはあっても、社交そのものを楽しむ機会はほとんどありません。だから親が豊かな社交をもっていないと、子どもは付き合いを楽しむとはどういうことなのか、よく知りま

「子どもが  
人との付き合い方で  
悩んでいます」

せん。

日本での社交には、昔から冠婚葬祭を軸とする親族会があります。が、他は職場で飲み会があるくらいで、社交の文化は貧弱です。しかし、夫婦や家族同士で交流し、会話や食事、時には旅行なども楽しむようにすれば、子どもは自ずから人との付き合い方を学んでいきます。

大学でも同窓会が各地で活動しています。多くの場合は年に1、2回総会を開く、あるいは大学から講師を招き講演会を催すなどの形式が多いようです。関西学院大学は総合大学です。ですから異業種交流ができます。公設市場を運営している人、家業の古いお店を営んでいる人などなど、身近にユニークな同窓生がいます。身近な人が自分の仕事を振り返って、30分から1時間くらい話をする。それを肴に皆で討論すると楽しいものです。

あるご婦人は、「ご主人が同窓会活動に熱心で、夫婦でよく会合に参加されていました。自分は関西学院の卒業生ではないけれど、ご主人が亡くなった後も、同窓生の集まりに参加し楽しんでいると話されて

例です。同窓会では、青春を共にした人たちがこれまでどう生きてきたか互いに話をし、家族ぐるみで交流しあつていく。活動が盛んな地区の同窓会は近隣の同窓会とも交流を持ち、面白い話し手がいれば派遣しあうこともできる。子どもはそういう大人の姿を見て、いろんな人間関係があること、人と交際していくことの喜びなどを知っていきます。まずは親が社交を豊かにし、子どもを誘えばよいのです。

**西** 宮上ヶ原キャンパスにある関西学院会館が10月に10周年を迎えた。来年1月まで、展覧会やコンサートなど多彩な記念イベントを開催している。

**誰もが集える場は  
アーチ型の門が特徴**

関学会館が開館したのは、学院創立111周年にあたる1999年。それまでであった同窓会館が手狭になったこともあり、同窓生をはじめ在校生、教職員、保護者、近隣住民がキャンパスにいつでも集える場をつくらうと建設された。

正門から北側へ約50㍍、市道に面しているので一般の人も入りやすい。外観は、大学の施設と同じスパニッシュ・ミッション・スタイル。アーチ型の門が特徴だ。最大500人収容できるレセプションホールや会議室、レストラン、チャペルなどで構成されている。館内に入っすぐ目にとまるのが、キャンパスの模型。1929年、原田の森から西宮上ヶ原キャンパスに移転した当時のキャンパスの風景を再現し、公開している。館内には、東山魁夷の絵画など20数点が常に展示され、入館者の目を楽しませている。

関西学院会館が10周年  
記念イベントを開催中



## 今後の10周年企画イベント

### 篠崎裕子作品展

12月8日④～11日⑤10時～18時・輝の間

「自然のパワー」をテーマに制作する現代美術作家のコラージュやオブジェなど約30点を展示。

### 弦楽四重奏レ・ラブル演奏会

12月23日④・⑤14時30分～・レセプションホール

クリスマスの音楽を演奏。入場料1,000円。

### 阪神・淡路震災

#### JAZZチャリティーコンサート

2010年1月17日④14時～・レセプションホール

15年前の阪神・淡路大震災の被災者の復興のために、卒業生を中心に関西のジャズシーンで活躍するミュージシャンによるチャリティーコンサート。今回で9回目。入場料3,500円(予定)。

#### 問い合わせ

校友課 ☎0798-54-6010

## 多彩に活用できる レセプションホール

レセプションホールは、シンポジウムや海外の著名人を招いた講演会をはじめ、結婚式の披露宴、ピアノの発表会やコンサートなど、幅広く活用されている。ひそかに人気になっているのが「ダンスホール」としての利用だ。フロアリングの床や音気にせず踊れるホールがダンス愛好者に評価されているという。

関学会館を管理する校友課の花田司課長は「私たち職員が利用方法を決めるものではありません。利用者からの要望で

新たな利用方法が生まれていきます」と喜ぶ。先月には、開館10周年企画として「上ヶ原レールフェア」を開催。卒業生の芝池巖さんが所有するドイツから輸入した大型鉄道模型GゲージやH0ゲージを、ホールいっぱいに走らせた。新たな企画は大成功で、親子連れや年配の方が多数詰めかけ、連日にぎわいを見せた。

## 年間10万人以上が来館 情報提供・発信の場

一般の人にも利用しやすいのがレストラン「ポプラ」。日替わりのランチのほかメニューがそ

ろい、昼時は、教職員や近隣住民で満席になるほど人気がある。

2階のベーツチャペルでは、毎月第2、第4日曜日に、日曜礼拝を行っている。教職員や学生のほか、学生の保護者、同窓生も参加し、共に静かな祈りの時間を過ごす。

開館2年目から、年間の来館者は毎年10万人を超え、関学関係者だけでなく、近隣住民にも

気軽に利用できる場所として定着している。

花田課長は「関学のキャンパスは開放されており、オープンな印象が強いが、一般の人はキャンパスの中までなかなか入りづらいかもしれない。今後は、会館にすれば、教員の研究内容や学生の活動が分かるような学院の情報提供・発信の場にしていきたい」と話している。



①レセプションホール ②レストラン「ポプラ」 ③1929年当時のキャンパスの模型  
④アーチ型の門が特徴の関西学院会館 ⑤毎年1月に開催する「阪神・淡路震災JAZZチャリティーコンサート」 ⑥にぎわいを見せた「上ヶ原レールフェア」





## 関学ラジオ番組 「アイデアカプセル」

ラジオNIKKEI、インターネットで放送中の教養番組「アイデアカプセル」の11月以降の講師が決まりました。放送は毎週金曜22時30分～22時45分。同社ホームページ(<http://blog.radionikkei.jp/kwangaku/>)からは、過去収録分をすべてお聴きいただけます。

▷11月=北村昌幸・文学部准教授「中世武士列伝」▷12月=和田充夫・商学部教授「アートとマーケティングの遭遇」▷1月=荏原明則・司法研究科教授▷2月=東田啓作・経済学部教授▷3月=難波功士・社会学部教授

☎宗教センター ☎0798-54-6018

## 関西学院聖歌隊 キャンドルライトサービス

▷日時=12月15日④18時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

## バロックアンサンブル クリスマスコンサート

▷日時=12月21日④18時40分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

## 関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール

▷日時=12月22日④18時30分  
▷場所=ザ・シンフォニーホール(大阪市北区)  
▷チケット=2,000円(大学生協・チケットぴあで販売)

## 関西学院聖歌隊 「メサイア」コンサート

▷日時=12月23日④⑤18時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

## 聖とキャンパスクリスマス —音楽で祝う降誕—

▷日時=12月23日④⑤18時30分  
▷場所=西宮聖和・山川記念館メアリー・ランバスチャペル

## お知らせ

### 法科大学院生が 法律相談(無料)に乗ります!

関西学院大学法科大学院では、授業の一環としてリーガルクリニック(法律相談)を実施しています。将来、弁護士や検察官、裁判官などの法律専門家を目指す学生が、ベテラン弁護士教員指導のもと無料で法律相談に乗ります。

未払い給与等を請求したいが少額のため弁護士費用等をかけると割に合わない、相続などの財産管理でもめごとが起

こらないように今から対策をとっておきたい、マンションを借りているが家主が修繕に応じてくれない、など多様な法律相談に応じます。なお、授業の一環で実施しますので、教育目的に適わない相談はお断りさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

▷実施期間等=授業期間中(10月2日～12月18日)の金曜(一部の日を除く)15時20分～17時(完全予約制)

▷場所=西宮上ヶ原キャンパス法科大学院棟内

予約・問い合わせは☎0798-54-1927

## 関西学院クリスマス行事

### アドベント礼拝 —クリスマスツリー点灯

▷日時=11月30日④18時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・中央芝生、神戸三田・ランバス記念礼拝堂、西宮聖和・1号館前

### オルガンコンサート “The Sound of Christmas”

▷日時=12月1日④16時50分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

### ランバス演奏会 「クリスマスコンサート」

▷日時=12月3日④17時  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂  
▷内容=うた・平井満美子、リュート・佐野健二

### ハンドベルクワイア クリスマスコンサート

▷日時=12月8日④18時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

### 大阪梅田キャンパスクリスマス クリスマスの調べ

▷日時=12月9日④17時  
▷プログラム=関西学院ハンドベルクワイアによる演奏(17時、アプローチタワー1

階エントランスホール)、グルーベル院長によるメッセージ(18時、大阪梅田・1405教室)

### 関西学院クリスマス礼拝 —音楽で祝う降誕

〈神戸三田〉  
▷日時=12月10日④18時30分  
▷場所=VI号館101号教室

〈西宮上ヶ原〉  
▷日時=12月17日④17時  
▷場所=中央講堂、中央芝生

### クリスマスコンサートin三田

▷日時=12月12日④13時  
▷場所=神戸三田・ランバス記念礼拝堂  
▷内容=バイオリン・平井誠 ほか

### 関西学院聖歌隊 ファミリーコンサート

▷日時=12月12日④14時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

### ゴスペル クリスマスライブ —関西学院ゴスペルクワイアPOV

▷日時=12月14日④18時30分  
▷場所=西宮上ヶ原・ランバス記念礼拝堂

## ☺学院通信

### エルダース・システム 夏のキャンプでも大学生が活躍

関西学院初等部では、異年齢交流「エルダース・システム」を導入し、運動会の練習、水泳の授業などさまざまな行事で大学生からサポート



を受けながら、人間関係のあり方などを学んでいる。

高等部や中学部が古くから取り入れている「ビッグブラザーズシステム」の初等部版で、7月下旬に2、3、4年生が実施した夏のキャンプで「エルダース」の大学生7人が児童と交流した。

徳島県阿南市で行われた3年生の自然体験キャンプでは、エルダースの学生3人が2泊3日の間、児童と同じ部屋に泊まって生活を共にした。入浴指導も学生が担当。岡島広明さん(文学部3年生)は、「最初はごちなかつたけど、自分から声をかけてみると、大学で何してる

の、などという質問されました」と話し、「自分を頼りにしてくれるのがうれしかった」と喜ぶ。ヨットやカヌーの体験プログラムでは、大学のヨット部員も参加してサポートした。

初等部のエルダース担当の板東正教諭は「児童からはやさしい・楽しい・おもしろいと好評で、あんなお兄さん、お姉さんになりたいという声もあがっている。目の前に目標とする人がいると、子どもたちも成長する」と効果を認め、「1回限りでなく、顔を覚えてくれるほど継続的に来てもらえるように充実させていきたい」と期待している。

## 時計台2階で 展覧会開催中

博物館開設準備室は、西宮上ヶ原キャンパスで展覧会「原野コレクションⅡ・EX LIBRIS(蔵書票)―夢二から現代作家まで―」を開催している。蔵書票コレクターとして知られる原野憲吉氏から寄贈された中から、今回は大正から現代に至る蔵書票を紹介する。入場無料。



▷期間等=12月18日(金)まで。時間は10時～16時30分。日曜、祝日は休館  
▷場所=関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス時計台2階展示室  
▷問い合わせ=博物館開設準備室☎0798-54-6054

## ご意見、ご感想をお寄せください

広報室では、本誌に対する読者の皆さまのご意見、ご感想などをお待ちしています。今号で興味深かった記事やこんな特集をしてほしいなどのご希望があればお寄せください。

今回は、2010年関西学院オリジナルカレンダーを10名様にプレゼントします。

標題に「ポプラ秋号プレゼント応募」と明記の上、①〒・住所②氏名③電話番号④本誌へのご意見・ご感想を記入して、関西学院広報室「ポプラ」編集係(下記参照)まで、はがき、FAX、電子メールでお寄せください。締め切りは12月10日(金)必着。当選は発送をもってかえさせていただきます。



※お寄せいただいた個人情報は、企画の参考およびプレゼントの発送に利用し、それ以外では利用いたしません。

〒662-8501  
西宮市上ヶ原一番町1-155  
関西学院広報室  
「ポプラ」編集係  
▶FAX 0798-51-0912  
▶メールアドレス  
kg-poplar@kwansei.ac.jp

K w a n g a k u C a p s u l e

## 緑のキャンパスに 南国の雰囲気

時計台の前に広がる中央芝生、仲間と集う学生たち…。関学生ならすぐ目に浮かぶキャンパス風景に欠かせないのが、芝生の周りにある背の高いヤシの木だろ。

この多くは30年ほど前、西宮市の香榭園浜にある西宮回生病院から移植された。病院の建て替え工事の際に、当時の菊池院長から「関学にあつてこそふさわしい」と寄贈されたという。

アメリカ西海岸に点在する建物の様式であるスパハンシユ・ミッションスタイルの校舎とあいまつて、キャンパスに南国のような雰囲気漂わせている。

木はヤシ科ワシントンア属ワシントンヤシで、宮崎県や鹿児島県などで生産される。耐寒力が強く、都市環境にも強い。ため、街路樹などにも利用されている。移植当時から樹高が1.5倍ほどに伸びた木もあるそつだ。



関学  
カプセル  
その④

ヤシの木

## キリスト教平和学事典



関西学院大学キリスト教と文化研究センター編  
教文館  
450頁 8,000円+税  
2009年9月25日

## アメリカにおける大学の地域貢献 産学連携の事例研究



宮田由紀夫(商学部教授)著  
中央経済社  
229頁 2,600円+税  
2009年7月15日

## 虜囚の記憶



野田正彰(学長直属教授)著  
みすず書房  
303頁 3,200円+税  
2009年6月25日

キリスト教と文化研究センターは1997年、キリスト教主義に基づいた研究と教育の充実を目指して設立された。本書は紛争、テロリズム、環境破壊、経済格差、差別問題、人権侵害、生命倫理問題など、現代世界が直面する諸問題をキリスト教の視点から分析、キリスト教者やキリスト教会が取り組むべき課題にどう対処していくかの理論と実践を解明している。「キリスト教と平和」に関する

地域貢献は、研究・教育と並ぶ大学の大きな使命として注目されている。大学は、地域において行政や企業との中間組織として「地域について考える場」として重要な役割を担っている。大学が地域にあることで、優秀な人材も集まる。

本書は、地域との連携のなかで、アメリカの大学がいかにしてイノベーションを生み出し、それを地域に還元することによって地域産業を発展させて

「反省は相手のためにするものではない。侵略戦争の反省も、私たちの社会を正常にしていける、他の社会と対等な交流が出来るようにしていく、ためである」(第4章)

月刊誌『世界』(岩波書店)の連載「虜囚の記憶」を贈る(2007年8月号〜2008年12月号)に加筆して出版した。著者は、中国・台湾を訪ね、15年戦争時に日本に強制連行された男性や日本軍に性

領域から、現代の平和構築を考えるのに重要な主題、用語、人名を精選し、144項目について86人が寄稿している。

出版にあたって、国際協力機構の緒方貞子理事長が「共生を求めて『グローバルに考え、ローカルに活動する』ためにも、『キリスト教平和学事典』の刊行はタイムリーで貴重である」とメッセージを寄せている。

きたか、事例研究を通じて考えている。

取り上げる事例は、スタンフォード大学とシリコンバレー、マサチューセッツ工科大学とボストンなどさまざま。各大学の歴史や地域性はそれぞれ異なるが、産学連携事業を推進するなかで行われた教員の意識改革をはじめとするさまざまな取り組みに、大学が発展するために必要なヒントがたくさん隠れていることが分かる。

暴力を受けた女性たちの体験と今日までの生活を聞き取り、全12章にまとめている。

この本の中で、著者は常に共感する力を問うている。幸せな日常を突如奪われた被害者たちがなぜ『世の中で最も悪い人間は日本人。最も良い人間も日本人』と話しあつた(第1章)のか。本書を通して彼らの記憶に耳を傾け、考えてみたい。

## 教職員の新聞

人物でたどる礼拝の歴史  
神田健次神学部教授共著  
日本キリスト教団出版局

情報人類学の射程  
フィールドから情報社会を読み解く  
奥野卓司社会学部教授著  
岩波書店

現代社会と家庭動物  
動物愛護社会化検定専門級試験  
公式テキストブック  
奥野卓司社会学部教授共同監修  
中島彦彦社会学部教授共同執筆  
ベピー

文化遺産と現代  
荻野昌弘社会学部教授共同執筆  
同成社

コスプレする社会  
サブカルチャーの身体文化  
難波功土社会学部教授共著  
ぜりか書房

日本の民俗信仰  
島村恭樹社会学部教授共同執筆  
八千代出版

世界中のアフリカへ行こう  
(旅する文化)のガイドブック  
鈴木慎一郎社会学部教授共著  
岩波書店

はじめて出会うカナダ  
櫻田大造法学部教授・  
大岡菜美社会学部助教共著  
有斐閣

関西学院大学産研叢書(33)  
ビジネス・イノベーション・システム  
能力・組織・競争  
土井教之経済学部教授編著・野瀬正治  
社会学部教授・古川靖洋総合政策学部教授・  
安田聡子商学部准教授・玉田俊平太経営  
戦略研究科准教授・宮田由起夫商学部教授・  
Holger BUNGSCHHE商学部准教授共同執筆  
日本評論社

基本から学ぶ地方財政  
小西砂千夫経済学研究科教授著  
学陽書房

シリーズ流通体系4  
地域商業の競争構造  
石原武政商学部教授共編著  
中央経済社

現代数理入門  
宮西正宜理工学部客員教授共編著・  
西谷滋人理工学部教授・小谷真一理工学部  
教授・川中宣明理工学部教授・増田佳代  
理工学部教授・巳波弘佳理工学部准教授・  
井坂元彦理工学部准教授共同執筆  
関西学院大学出版会

会計制度(四訂版)  
山地範明経営戦略研究科教授著  
同文館出版

アジア・パロメーター  
南アジアと中央アジアの価値観  
真鍋一史名誉教授分担執筆  
明石書店

Cooperation in Classification  
and Data Analysis  
真鍋一史名誉教授分担執筆  
Springer

# モーセ

与えられるのです。その実現のためにモーセはエジプト王と、奇跡などもまじえて交渉を重ね、なんとかエジプトからの脱出を達成した！と思う間もなく、エジプト王は心変わりしヘブライ人を追跡したのです。その追っ手に紅海の手海まで追い詰められたとき、モーセの祈りに応えた神が海を分けるという奇跡が起こり、ヘブライ人は約束の地カナンを目指して旅を続けます。その荒野の旅の途中に神に不信を抱いた民は、モーセがシナイ山に神からの掟「十戒」を与えられている間、金の子牛を礼拝することによって神の怒りを買ひ、その後40年にわたって民全体が荒野を放浪することになります。その間もモーセは民を導きつつイスラエル社会の基本的法を与えられるなどして、ようやく約束の地カナンを目前にする場所に到り、そこで生涯を閉じるのです。彼は「120歳」で死んだ(申命記34章10節)とされていますが、40年の荒野の放浪を考えると、彼がエジプトを脱出したのは80歳ということになりますね。

この文字通り波乱万丈の生涯を貫く大きな物語のテーマは、その「モーセ」という名前そのものにあるようです。弱く小さな存在として生きることの厳しさ、苦しみを負わされつつ、生涯の最後までその場から引き出され、解放されることの喜びと希望を示し続けるという存在だったのです。

王女は彼をモーセと名付けて言った。「水の申からわたしが引き上げた(マーシャー)ののですから。」(出エジプト記2章10節)

旧約の最初の五つの書物はユダヤ教で「トラー」と呼ばれその信仰の核となる書物ですが、それがモーセによって書かれたということで「モーセの五書」とも言われます。それほどモーセという人物の存在は大きなもの、人類の祖となったアダムとエバ、イスラエル民族の族長とされるアブラハムやイサク、ヤコブたちの生涯が、創世記の一部分でしか扱われないのに、モーセの生涯は旧約の二番目の書、出エジプト記の最初から五番目の申命記までを通じて描かれます(実は『申命記』の最後のところはモーセ自身の死と埋葬のことも書かれていますので、ではこれは誰が書いたのという論争も生まれましたのですね)。

彼はエジプトに寄留していたヘブライ人の家庭に生まれます。その時代エジプト人はヘブライの民を酷使し、母親はなんとかその子の命を守ろうと、かごにその子をいれてナイル河に流します。そのかごはエジプト王女に拾われ、彼はエジプト宮廷で育てられます。しかしその宮廷で、正義感に駆られた結果とはいえ殺人を犯して宮廷を去り、ミデアンの砂漠で羊飼いに身をやつします。そのときに神と出会い、エジプトからヘブライ人たちを解放する使命を

## 編集後記

● ミッションステートメントができてまもなく一年になります。学院を担う我々教職員は、ミッションが実現されているか常に問われています。(久)

● 関学で甲子園といえばアメフトですが、悲願だった高等部野球部の甲子園。この夏、関学野球がすっかり関学らしさをアピールしました。高等部だけでなくオール関学がスタンドで、TVの前で声援を送りました。みんな関学が好きなんですネ。(川)

● 学院史編集室には、4人の院長にまつわる品が数々残っています。寄贈されたものがほとんどで、遺族に大切に保管されていた様子が伝わってきました。(信)

● 本誌でもお馴染みの野田正彰教授の教育講演会を全国各地で開催しました。保護者の方にも多数ご来場いただきました。改めて感謝申し上げます。(い)

## POPLAR No.66

発行日/2009年11月15日  
発行/関西学院大学  
編集/広報室  
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155  
☎0798-54-6017  
<http://www.kwansei.ac.jp/>  
写真/清水茂  
制作/関神戸新聞総合印刷

※この冊子は関西学院に在籍する学生・生徒・児童・園児の保護者・保証人のご住所に春・夏・秋・冬、年に4回お届けいたします。

# RESONANCE FIELD 3.0

## Crash the **RULE**

KOKUYO



### 企業の成長を阻む固定概念をCrashする。

#### 生産性向上の常識

利便性をあげれば生産性が向上すると考えていませんか？

#### 成果主義の常識

個人のパフォーマンスを追求すれば成果が上がると過信していませんか？

#### 見える化の常識

今の時代に効率化や管理の視点からの見える化だけで良いですか？

#### 執務環境の常識

テナントビルでのエコ対応は無理と考えていませんか？

### 新しい視点と価値を提供するコンサルティング。

#### 時間軸を意識した行動へ



ターゲット導入  
コンサルティング



ファイリング  
コンサルティング

#### 意識共有されたチームに



ワークスタイル  
コンサルティング

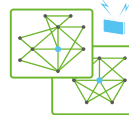


ブランド  
コンサルティング

#### 成長に繋がる気づき



スキルパーク  
(研修)



ビジネス顕微鏡  
ソリューション

#### 環境/運用とマインドの更新



エコ導入  
コンサルティング



エコマインド向上  
ソリューション

新しいオフィスづくりのヒントがある、ライブオフィス見学にぜひお越し下さい。

コクヨオフィスシステム株式会社

www.kokuyo-kos.co.jp/

本社 〒100-6018 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル18F  
 関西支店 〒537-8686 大阪市東成区大今里南6-1-1  
 中部支店 〒451-6011 名古屋市西区牛島町6-1 名古屋ルーセントタワー11F  
 横浜支店 〒220-8133 横浜市西区みなとみらい2-2-1 ランドマークタワー33F  
 九州支店 〒812-0038 福岡市博多区祇園町7-20 博多祇園センタープレイス2F

TEL. (03) 5510-4430  
 TEL. (06) 6976-1560  
 TEL. (052) 569-5941  
 TEL. (045) 224-1777  
 TEL. (092) 281-2511